

平成26年3月期

第2四半期決算説明 参考資料

平成25年11月7日



目 次

1. 平成26年3月期第2四半期 業績推移	・・・ P3
2. 連結売上高及び営業利益の推移	・・・ P4
3. 連結キャッシュ・フローの推移	・・・ P5
4. 総資産、純利益およびROAの推移(連結)	・・・ P6
5. 資産、負債及び純資産の推移(連結)	・・・ P7
6. 水産事業の売上高及び営業利益の推移	・・・ P8
7. 一般食品事業の売上高及び営業利益の推移	・・・ P9
8. 畜産事業の売上高及び営業利益の推移	・・・ P10

本資料に記載されている業績見通しや将来予測は、資料作成時点での当社の判断であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績等は大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

1. 平成26年3月期第2四半期 業績推移

- 売上高は、強みであります商品調達力・開発力と、生鮮基軸の地域密着型フルライン機能を発揮し、新規顧客開拓と既存顧客の深耕化を推進したことから、814億76百万円(前年同期比3.3%増)となりました。
- 利益面は、急激な相場変動による仕入価格上昇の影響等により、営業利益2億47百万円(前年同期比34.4%減)、経常利益4億66百万円(同20.5%減)、四半期純利益2億57百万円(同20.0%減)となりました。

平成26年3月期第2四半期連結累計実績

単位:百万円

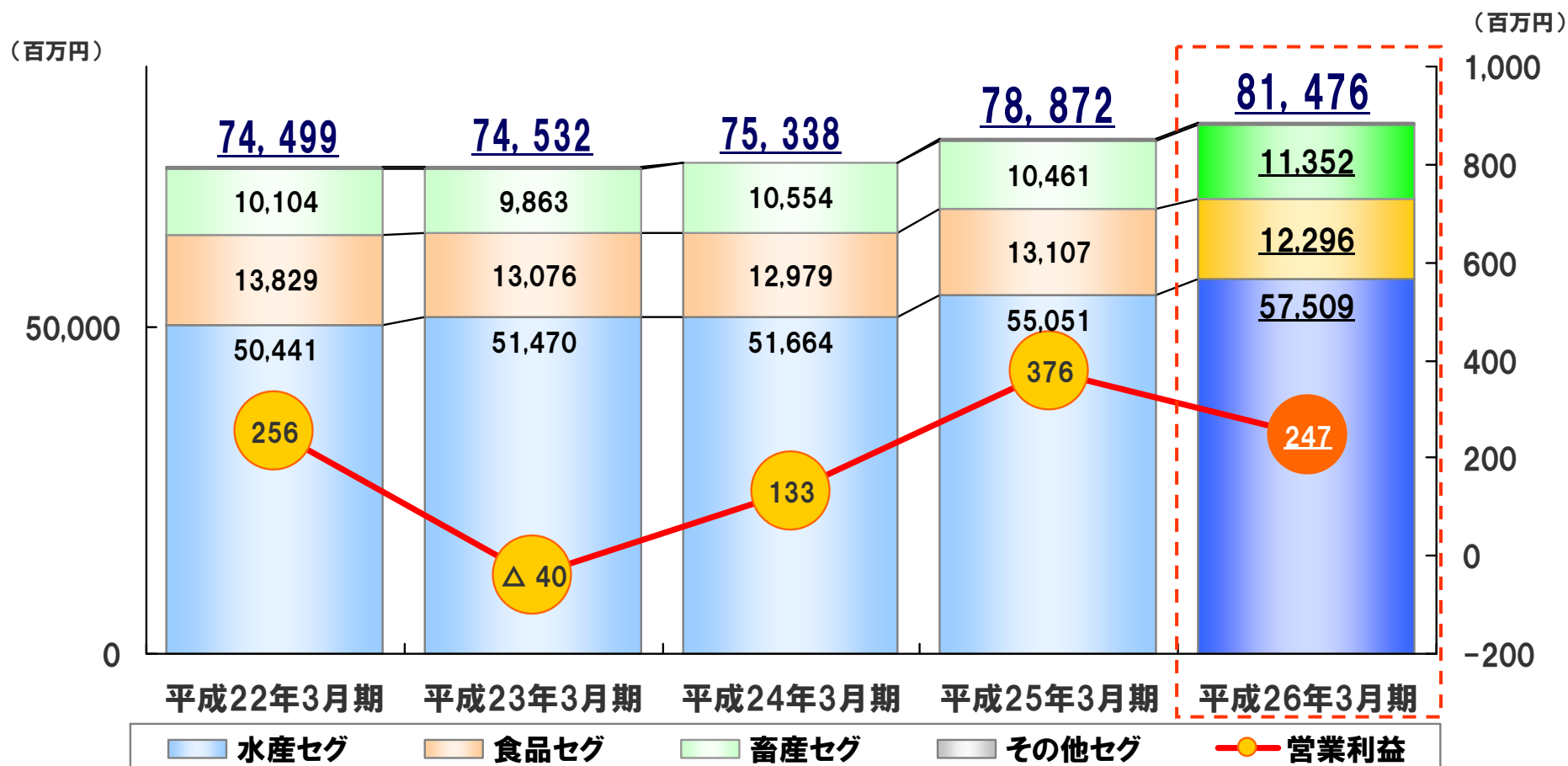
	第1四半期			第2四半期累計			通期 予想
	実績	前年比	前年増減	実績	前年比	前年増減	
売上高	38,664	100.2%	68	81,476	103.3%	2,604	162,000
営業利益	△46	-	△136	247	65.6%	△129	1,000
経常利益	64	32.3%	△135	466	79.5%	△120	1,350
当期純利益	17	18.4%	△76	257	80.0%	△64	650

平成26年3月期の通期業績予想につきましては、平成25年5月10日発表から変更はございません。

2. 連結売上高および営業利益の推移

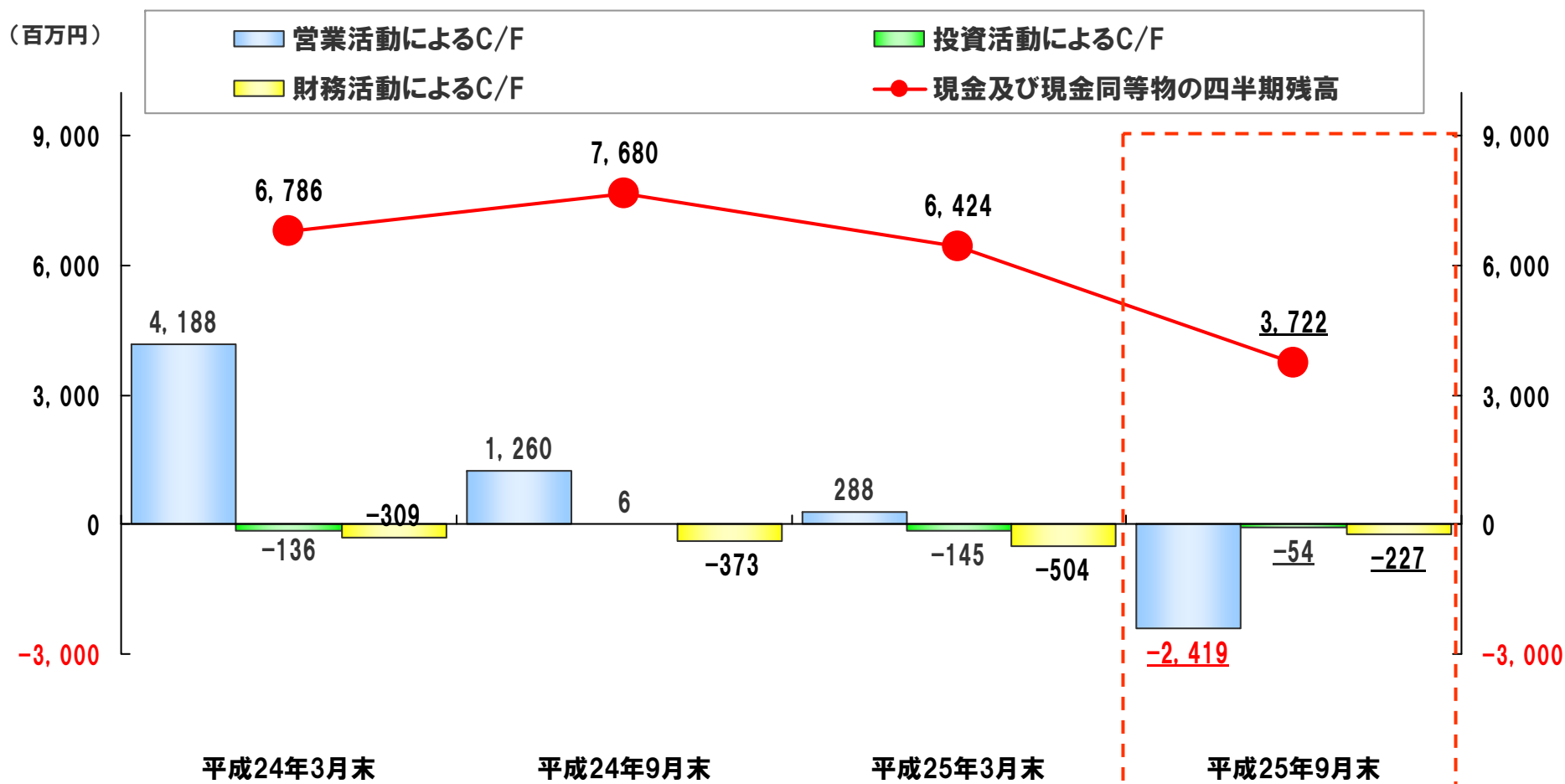
- 急激な相場変動による仕入価格上昇への対応を進め、収益改善に努めました。
- ロジスティクス基盤の構築に向けては、新たなフルライン対応型物流拠点「山梨・西関東広域流通センター」を開設し、調達ネットワークと配送網の整備に取り組みました。

第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移



3. 連結キャッシュ・フローの推移

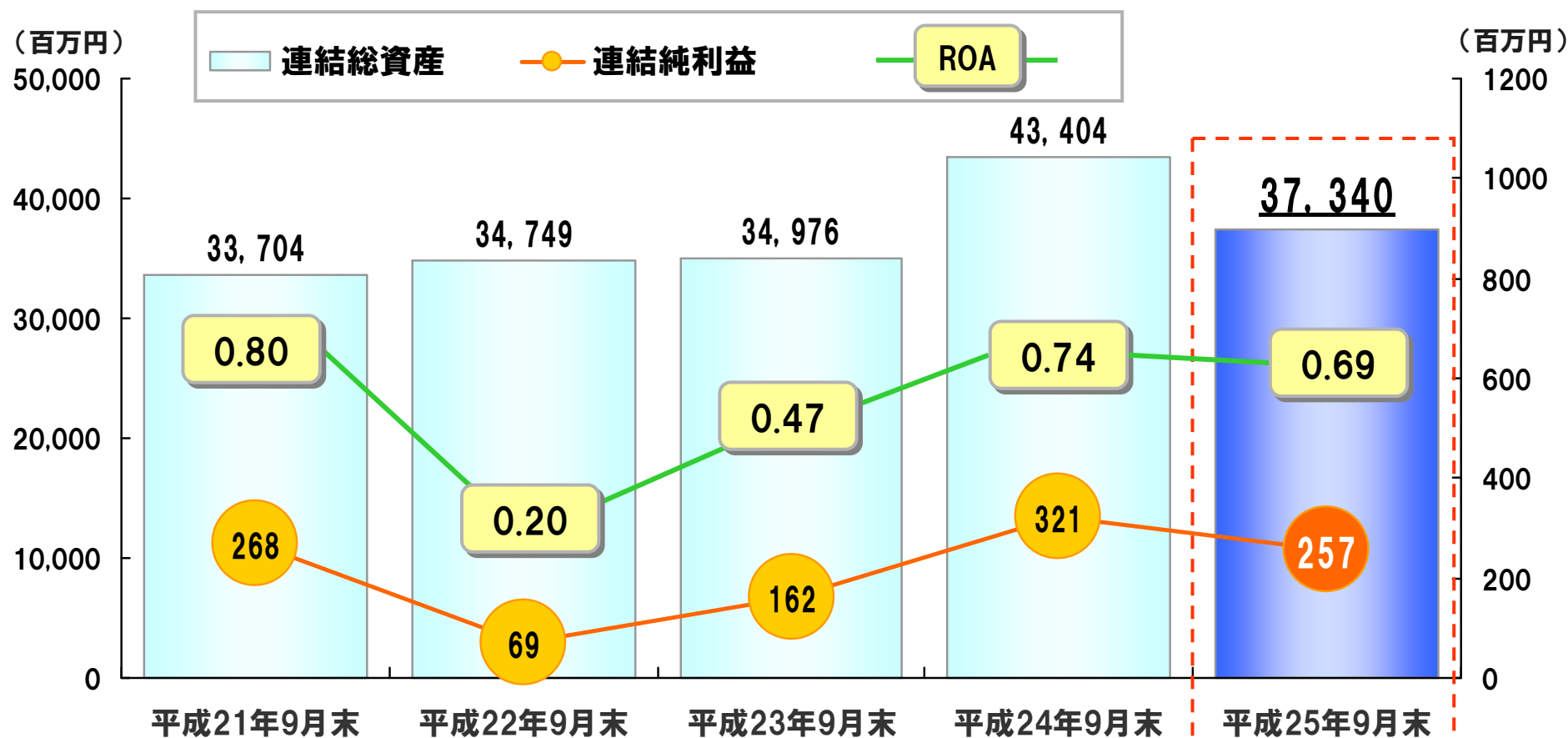
- 当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は37億22百万円となり、前連結会計年度末と比較して27億1百万円の減少となりました。
- 営業活動の結果減少した資金は24億19百万円、投資活動の結果減少した資金は54百万円、財務活動の結果減少した資金は2億27百万円となりました。



4. 総資産、純利益およびROAの推移(連結)

- 連結総資産は373億40百万円となり、前連結会計年度末と比較して44億24百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金が27億58百万円、受取手形及び売掛金が22億32百万円、投資有価証券が2億24百万円減少する一方で、商品及び製品が8億94百万円増加したことによります。

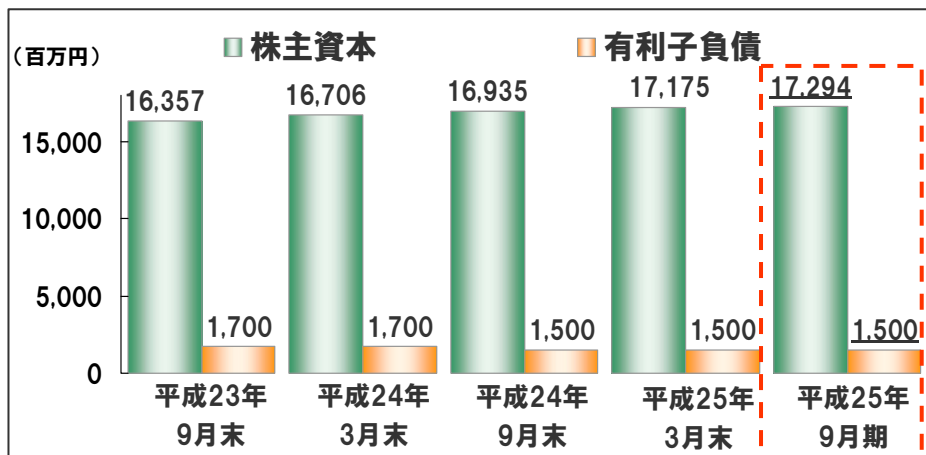
■第2四半期累計連結総資産、連結純利益、連結ROA推移



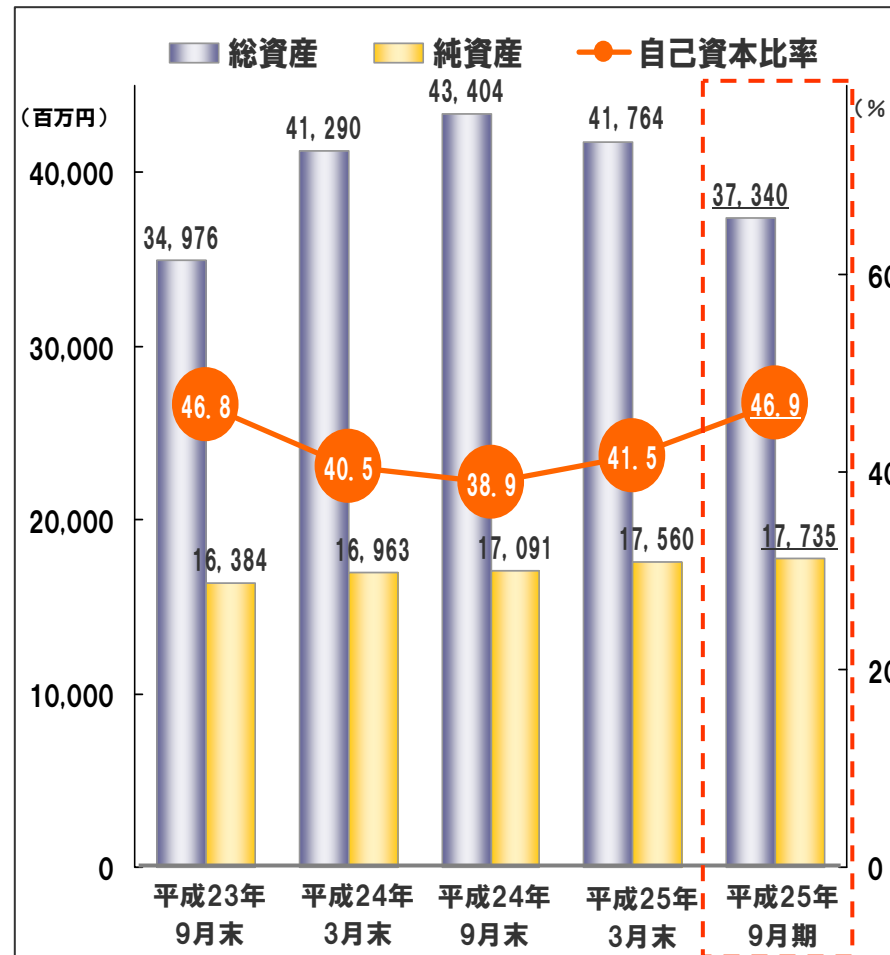
5. 資産、負債及び純資産の推移(連結)

- 平成25年3月末と比較して、純資産は1億75百万円増加、総資産は44億24百万円増加となりました。また、自己資本比率は、平成25年3月末の41.5%から46.9%に増加しました。
- 有利子負債残高は15億円となりました。

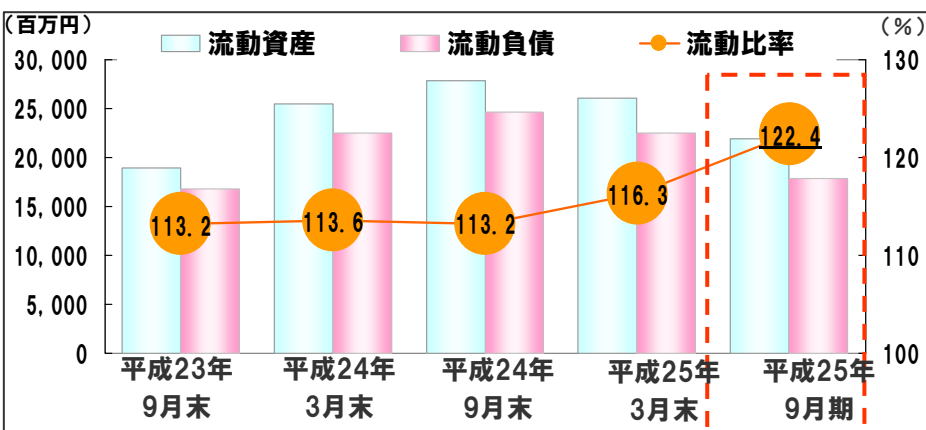
株主資本・有利子負債の推移



総資産・純資産・自己資本比率の推移



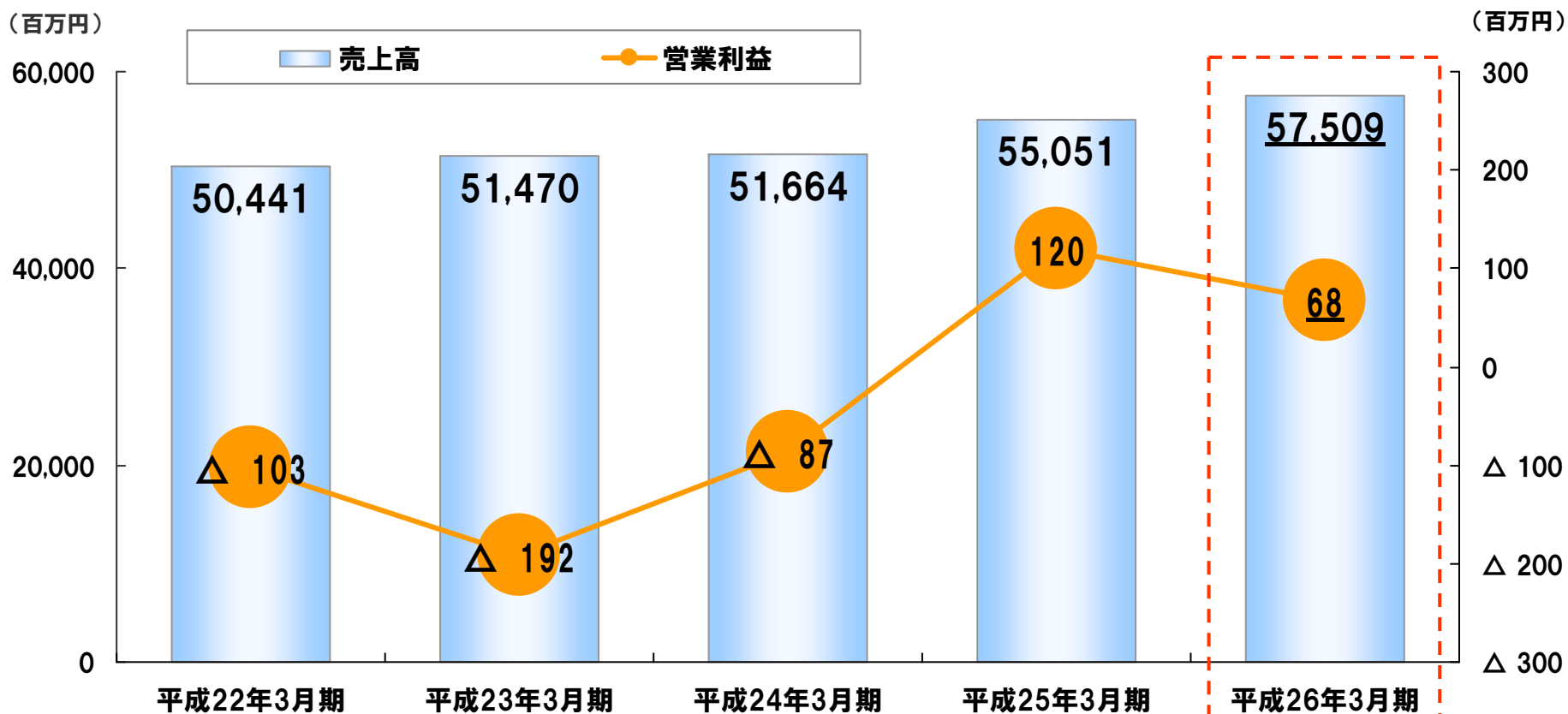
流動比率の推移



6. 水産事業の売上高及び営業利益の推移

- 売上高につきましては、大衆魚(あじ、いわし等)や鮭の売上が好調に推移したことに加え、フードサービス事業による外食・惣菜マーケットへの販売拡大により、前年同期に対して24億58百万円の増収となりました。
- 利益面につきましては、売上高の拡大により売上総利益は増加しましたが、水産物全般の価格上昇の影響により、前年同期に対して52百万円の減益となりました。

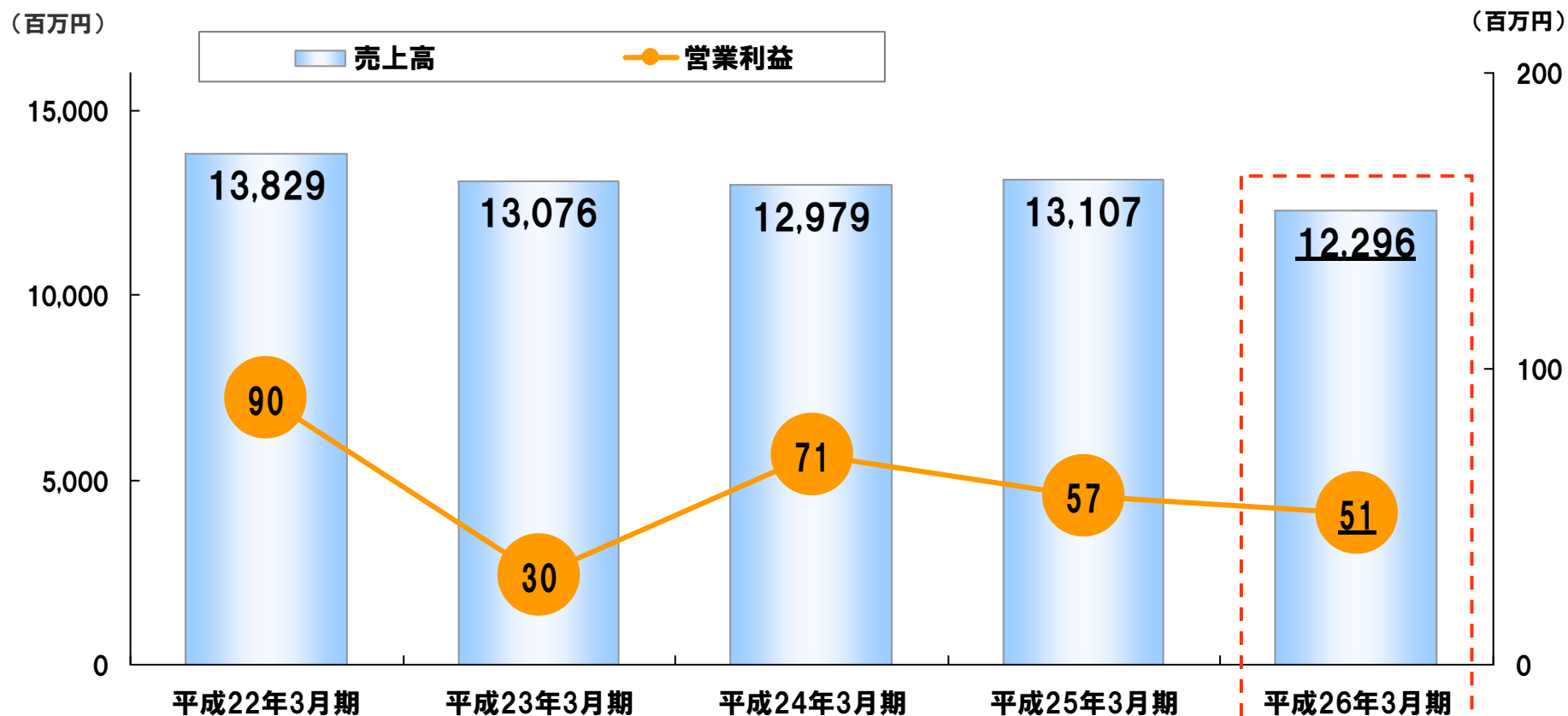
第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移



7. 一般食品事業の売上高及び営業利益の推移

- 売上高につきましては、地域小売業へのフルライン機能を活かした提案型営業による取引拡大と、当社オリジナル商品の開発と販売を積極的に進めましたが、大手小売業の仕入調達ルート変更の影響もあり、前年同期に対して8億11百万円の減収となりました。
- 利益面につきましては、店頭での低価格競争の影響により販売価格が低下し、管理費等のコスト削減に努めたものの、前年同期に対して6百万円の減益となりました。

第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移



8. 畜産事業の売上高及び営業利益の推移

- 売上高につきましては、国産畜肉価格の高騰と、円安による輸入品の値上げという状況の中、当社オリジナル開発商品であります「りんご和牛信州牛」「信州米豚」「信州ハーブ鶏」の拡売を進めたことから、前年同期に対して8億91百万円の増収となりました。
- 利益面につきましては、相場の高値推移に対して販売価格への転嫁が遅れ、管理費等のコスト削減を進めましたが、前年同期に対して33百万円の減益となりました。

第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移

